

北海道・東北ブロック

全体討論会の報告の後、その報告を踏まえて 新版テキストを使用する際に、リーダーはどのように関わったらよいか、 積極性に関わるにはどのようにしたらよいかについて話し合った。その中で、「第 2 章 “リーダーは何をするのかな ”」に注目し、各県から意見を出しどう活用していくか考えた。

その結果、新版テキストを実際に使用していない県もあり、具体的な活用方法は明確にはならなかったが、テキストの内容だけでは伝えきれないこともあるので、補助資料（例えば、DVD 作成など）を作る必要がある結論となった。

ブロック研究大会については、開催県である秋田県を中心に活動等の確認を行った。

関東ブロック

全体討論会で話し合われた内容を受け、「ジュニア・リーダースクールの在り方」について、ジュニア・リーダースクールで一番団員に学んでほしいことを話し合った。その結果、

リーダーの楽しさ、 リーダーとは何かの 2 つのポイントに絞ることとなった。スクーリングでは、まずリーダーの意味、必要性などの概念的な事を講義やスクーリング中のリーダーの行動を見て興味をもってもらえるように努めることとした。その他、スクーリングに参加する際に指導者から推薦状をもらい、団員に期待をかけ成長できるようにすると、次のスクーリングにも団員を派遣する仕組みが生まれるのではないかという意見もでた。

また、ブロック研究大会については、1 タームが終了したので1つ1つ内容を復習し、これらの内容についての主旨を確認した。

北信越ブロック

全体討論会の内容を踏まえ、新版テキストについて検討していくこととした。ジュニア・リーダースクールで新版テキストを使用する前に、指導者やリーダーがテキストの内容を理解すべきとの意見が出た。また、新版テキストをジュニアで活用し学んだことが、シニアでどのように生きてくるのか考えた時に、テキストだけでは不十分な内容もあるので、同時交流やシニアに参加し、新版テキストを使用したことのある人が体験談（リーダーやその活動の魅力について）を話してもらうといった意見がでた。

次回ブロック研究大会については、新版テキストの内容を実践することとした。

東海ブロック

全体討論会での報告の後、その内容について意見交換を行った。まず、東海ブロックのジュニア・リーダーの現状を確認し、新版テキストの利用については、地域ごとに異なる制度があるため、各々の環境に順応しながらテキストを活用すべきとの意見がでた。また、日独同時交流やシニア・リーダースクール等の情報についても掲載してほしいとの意見があった。

ブロック研究大会については、日程、内容の確認を行い、引き続き検討していくこととした。

近畿ブロック

全体討論会での内容を受け、情報交換を行った。新旧テキストそれぞれメリット・デメリットがあるが、新版テキストに頼り過ぎて各県のスクーリングの特徴が無くなるのではないかとの意見がでた。それに対して、丸々テキストを使用するのではなく、気に入った資料をピックアップし、コピーをして使用する形でもいいのかという結論にまとまった。また、ジュニアからシニアへのステップアップとして、積極的に運営を任せ、運営することが楽しい、継続につなげるといったサイクルを作るといった提案がされた。

ブロック大会については、率直なリーダーの意見を聞くために、分かりやすいテーマを取り上げ、また1年でもリーダー会の活動を経験したことがあれば参加してもらうこととした。また、前回のテーマをリーダーとしての原点について話し合ったので、その次のステップについて次回は話ができるようにすることとした。

中国ブロック

全体討論会での情報を共有した後、各課題についてブロックとしてどう取り組むか話し合いを行った。リーダーが事前にテキストの内容を理解し、参加者に伝えられるようにするといった意見がでた。また、リーダー会の活動を活発にするために、年に何回か研修会を開き、集まる機会をつくることとし、その研修会でリーダー会の必要性について理解を深めるなど、有意義な研修会としていくこととした。

ブロック大会については、今回のリーダー連絡会で述べた、各県の今後の取り組みの成果を次回ブロック研究大会で発表・報告し、意見交換をして、今後の活動に活かしていくこととした。

四国ブロック

全体討論会で話し合った内容について、情報交換を行った。しっかりとテキストを読み込み内容を理解することや、団員が書き込みをするところについては主旨から外れないよう、リーダーが参加者と指導者のパイプ役となり、指導者がサポートしていくなどの意見が出た。また、新版テキストの使い方についても、テキストを基本としつつも講師がプラスし、特色を出すことが重要であるとした。さらに、テキストを利用する際には、講師とリーダーの間で共通理解を行うことを確認した。

ブロック研究大会については、テーマを「原点回帰」としリーダーとは等を話し合うこととした。また、研究大会までに各県のリーダー会の現状を参加者全員が把握しておくことになった。

九州ブロック

全体討論会での内容を受け、改めてリーダーがテキストの内容を把握する必要があることを再確認した。団員、指導者、保護者にまず活動に関心を持ってもらうためにも、ジュニア・リーダーについて理解してもらう必要があるため、いかに地域でアピールしていくかについて、今後引き続き検討していくこととした。

講師講評

日本スポーツ少年団リーダー養成 WG
佐藤 充宏

今回、ジュニア・リーダースクールのテキストの改訂にあたり、作成の前段階として、まず、ジュニア・リーダースクールのテキストは使用されているのかという問題提起があった。実際、テキストを使用していないという現状が多々あり、「何のためにテキストがあるのか」という疑問が浮上した。テキストは学校の教科書ではないので、必要最低限の内容しか載せることができない。しかし、小学生の団員でも興味を持ってもらえるように、また少年団活動をほとんど知らない人にも関心を持って知ってもらえるテキストにするため、今回改訂を行うこととなった。基本的な姿勢としては、現場の意見を汲み取り、必要なものを作りたいと考えている。そのために、今回新版テキストについて話しあってもらった。もちろん、47 都道府県によってやり方が異なるが、共通部分の「リーダーとは」「何のためにリーダー活動を教えるか」について原点に戻る必要があった。

そこで、これからのリーダー養成について、考えてほしいポイントが 3 つある。

1 つ目は、リーダー活動が目に見える形、「可視化」していくことである。小学生はリーダーの理念を読んでも理解できない。理念を理解するのではなく、先輩や指導者と活動を共にしながら理念の内容を学んでいくものである。リーダー養成の核には先輩・指導者をモデルとし、そこから学んでいる部分が多い。その部分を大切にすることが、新版テキストの中核にある。そのために、指導者やリーダーが子供たちと一緒に活動して悩んで、学んで伝えて言ってほしい。そういった「経験価値」をいかに高められるかを考えてほしいと思う。

2 つ目として、「つながり」をどう生み出すかである。どのようにしてリーダー活動を楽しむか、また部活等で忙しいリーダーに、リーダーとしての自覚やリーダー活動の満足感をどの様にして得てもらうかが課題である。その課題に対して、仲間としてどの様に支え、関係を作っていくのか、「つながり」を生み出す工夫を考えなければならない。

3 つ目として、「伝える」ということ。テキストの最後に『ゴールに向かって』を記載したが、これはビジョンとゴールの考えに基づくものである。ビジョンとして今立たされている状況を把握し、それに対し目標を立ててそれに対して、新たなスタートをきってほしいという意味を込めて『ゴールに向かって』を最後に載せた。一人ひとりビジョンもゴールも異なるが、それらに寄り添っていけるリーダーや指導者の活動を今後期待したい。そのために、リーダーとして、指導者として少なくとも 2 名の後輩に活動内容を伝えていただきたいと思う。最後に、今回話し合った内容を、是非現場で活用していただきたい。